

湿害農地の解消に

現状



湿害により作業効率が悪く、
作付け作物も限られる

地下水制御システム（FOEAS）対策実施ほ場と
未実施ほ場との比較（右側が未実施）



地下水位の調整ができないことによる、
収量の減少及び作物生育被害

暗渠排水対策実施後



暗渠排水実施後は作業効率の改善、
新たな作物の導入も可能になる

FOEAS地下灌漑システムによる大豆栽培

対策実施後のほ場



地下水位の調整が容易にできれば、
収量の安定、増加が見込まれる

（１）現在、地域はこのような農地で困っていませんか？

- ほ場の排水が思うようにできず、ぬかるみで農作業機械での作業が困難
- ほ場の排水不良が原因で、ほ場に溜まった水による畦畔浸食が見られる
- 水田の乾田化ができず、転作や裏作物に影響が生じている

（２）湿害農地への対策には「暗渠排水」

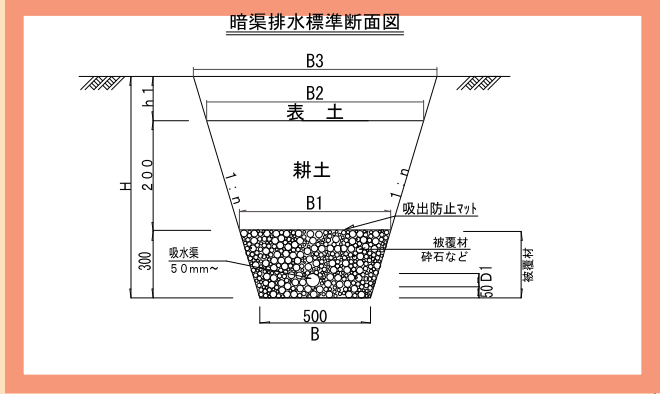
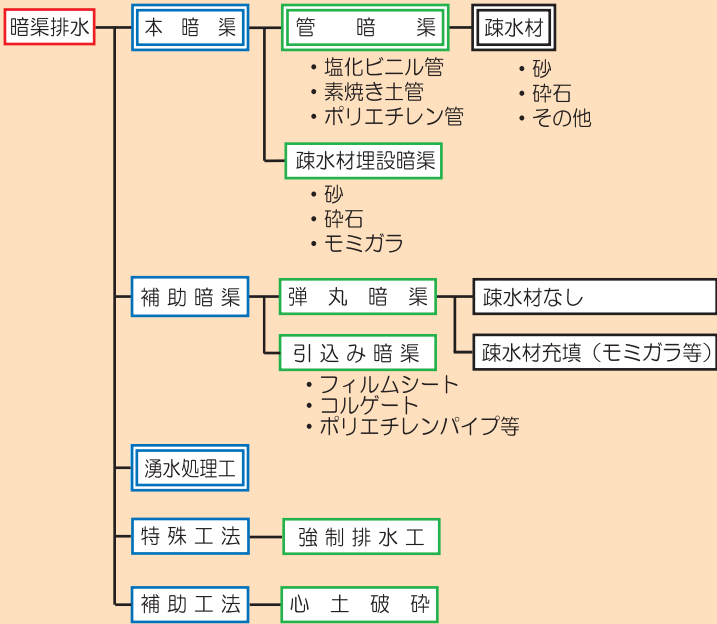
- ほ場の乾田化、または乾畑化することに伴い、作物生育条件の改善による収穫量の増加、新たな作物導入の可能性による作付面積の増加が見込まれる
- 水田の用排水管理にかかる労力の節減及びほ場の乾田化、または乾畑化に伴う労働時間、機械作業時間の短縮により、農作業の効率が見込まれる

（３）暗渠排水の必要性の判断（目安）

- 土壌タイプによる判断（黒ボク土、灰色低地土）
- 地下水水位からの判断（降雨1週間以降、地表面より60cm以内に地下水がある場合）
- 地表残留水からの判断（水田では、湛水から24時間以内に地表残留水が排除できない場合）
- 地耐力からの判断（落水または降雨後1週間以降、平均で0.39N/mm²以下の場合）
- 土壌透水性からの判断（耕土下30cm程度で透水係数が、10⁻⁴cm/s以下の場合）

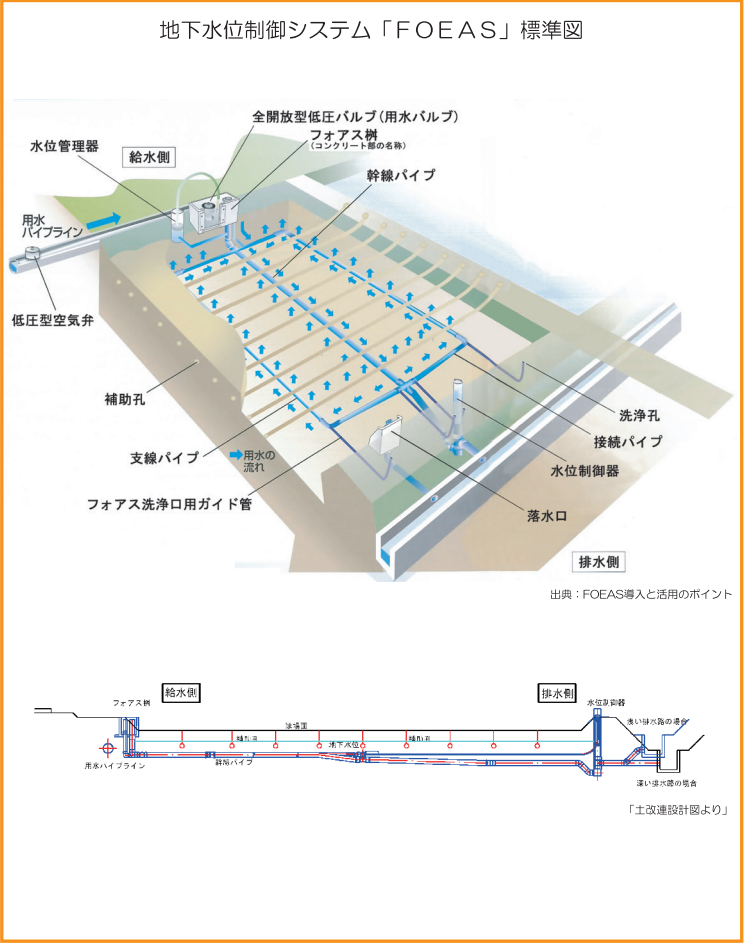
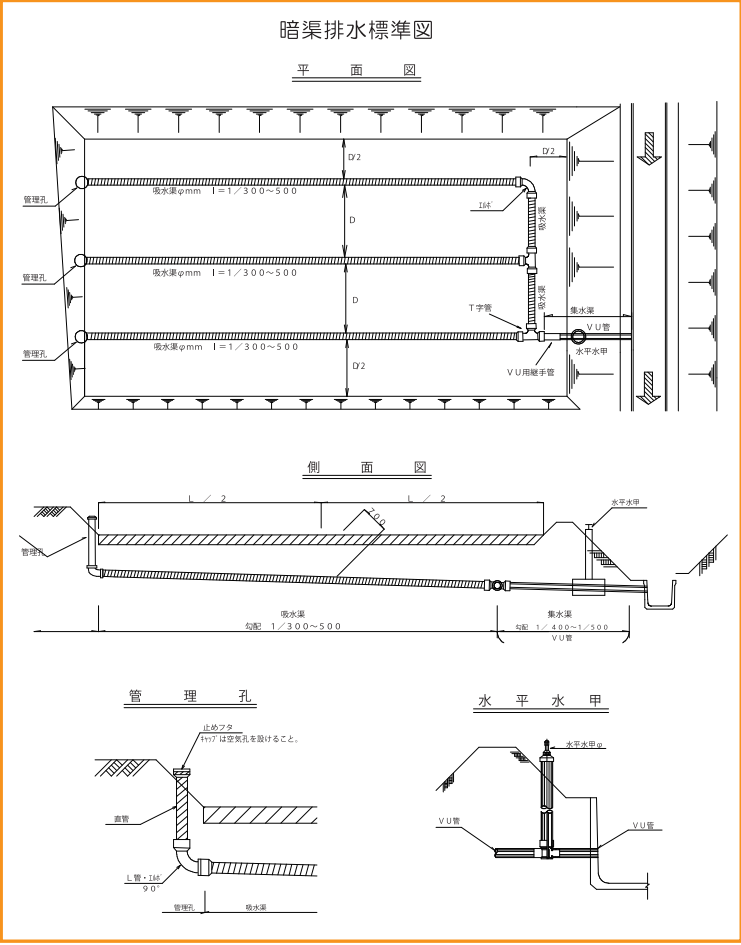
向けて支援します

暗渠排水工法は次のように分類できます



「節水型の用水管理」「農道沿い開水路のパイプライン化による農道の拡幅」等の要望がある場合は地下水水位制御システム「FOEAS」の工法も選択可能です

※一般的に選定される工法は「本暗渠」です
 ・管暗渠は吸水管を疎水材で被覆した後、掘削土で埋め戻す工法
 ・補助暗渠は本暗渠と直交して計画することにより、本暗渠のみで地下排水ができない土壌でも、容易に排水が可能となる



排水工法 お気軽にご相談ください

問い合わせは、事業部農村整備課または最寄りの事務所・支部まで